opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 -5

田舎の教会での仕事を終えて サラゴサに戻ってきたホら リアを、サラゴサ教区から追 い出そうとしている動きを 知ったホセマリアは、 くこ 伴ってマドリードに行く に決めました。

2020/09/23

二ヶ月の田舎の教会での仕事を終えてサラゴサに戻ってきたホセマリア神父には、解決すべき二つの大きな

問題がありました。一つはお金の問題。母と姉と弟は極めて苦しい生活を送っていました。もう一つは法学の勉強。これは亡き父との約束であり、神父にとって大学での生活は楽しいことでさえありましたが、家族の状況を考えると一刻も早く課程を修了しなければなりませんでした。

司祭の仕事として旧市街にあった教 会の手伝いの仕事を見つけました。 それはその教会でミサや他の儀式を 行い、様々な信者の会の指導という 仕事でしたが、とても熱心に働いた ので皆が満足しました。しかし、そ れらの仕事の謝礼は家族を養うのに は不十分だったので、予備校での教 師のアルバイトもしました。

これらの仕事をしながら、大学に通い、必要な科目をとって試験を受けていきました。彼は大学での生活にとても馴染んでいて、そこでは学生だけでなく先生たちとも友達にな

り、神に近づけようとしました。や がではサラゴサを法しませんがではサラコたが、はいるといることには明に持ちでいまい出をがにないないました。かののははいました。ながではないないないないがありないがありないがでした。と思いないます。

家族の経済状態はいっこうに良ななくない。 またではまとまったとまっていまる司祭の仕事を探していまるころがこれが区の教会にのでするです。教区のできが出るといっているという。 ないののとしているとがですが、ホセマバースを追いますが、ホセマバースをしているとののとしているというとしているという。

ホセマリアは、この叔父の司祭にあるまじき不正な行為を神の導きと考え不平を漏らさず、その友人の勧らに従って、家族そろってマドリーよのに行くことに決めました。なによりの博士号がとれるのです。そしてこのマドリードでオプです。それることになるのです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-5/(2025/12/14)